

伸縮ワイヤーのバイクへの接続方法、接続箇所は各種バイクにより異なります。乗車時は様々な状況によりバイクの動きが変わります。その場面に十分留意し、誤操作による誤作動が起これないように、伸縮ワイヤーの長さ、バイクへの取付け位置を決めて下さい。(伸縮ワイヤー取付方法・位置 P17~18参照)

不適切な接続の場合、誤作動や作動しない恐れがありますのでご注意ください。

- 警告**
- 1. 乗車時に、接続を解除した伸縮ワイヤーがエンジン等の高温部分に触れた場合、変形や破損の恐れがあります。
 - 2. 伸縮ワイヤーは運転の妨げになる場所への取付けはお避け下さい。
 - 3. 伸縮ワイヤーをシートエリア付近に接続しないで行った場合に、車輻に絡み付く場所への取付けはお避け下さい。
 - 4. 乗車時・走行時に伸縮ワイヤーなどがバイクの各部位に接触した場合や、シートエリアの各部位に接触し、傷つく場合があります。
 - 5. 伸縮ワイヤーの取付けが不完全の場合、伸縮ワイヤーが抜け作動しません。
 - 6. 外装にこすれ傷、こけおとし、めくれ、LR等の異常を確認した場合は新しいものにお取り替え下さい。
 - 7. 伸縮ワイヤーのお取り替えは、各自の責任において適切に行ってください。

伸縮ワイヤーのバイク部分には、強度に優れたケブラー糸を使用し、ウレタン樹脂で表面をコーティングしてあります。

伸縮ワイヤーの内部を通す

必ず強く結ぶ

注意

- 伸縮ワイヤーと伸縮ワイヤーへの損傷を防ぐ保護カバー(バイクと伸縮ワイヤーの中間に通し、バイクのフレームやバイクのボトムなど)を付け箇所形状に貼付して、適切な長さで切断して下さい。

乗車の際に、螺ネが強く締まると、伸縮ワイヤーの長さを調節して下さい。

長さを調節する場合は、ワイヤーをシートエリアの溝に挟み込み、先端部を2cm以上残して、乗付に結び目を作(硬く結ぶ)、先端部を2cm以上残して、乗付部分を切り、キャップを締めして下さい。

※結び目が無いワイヤーが抜けてエアバッグが膨らみません。

バイクと伸縮ワイヤーへの損傷を防ぐ保護カバー

必ず強く結ぶ

注意

- 伸縮ワイヤーと伸縮ワイヤーへの損傷を防ぐ保護カバー(バイクと伸縮ワイヤーの中間に通し、バイクのフレームやバイクのボトムなど)を付け箇所形状に貼付して、適切な長さで切断して下さい。

伸縮ワイヤーをバイクのフレームやバイクのボトムなど、適切な長さで切断して下さい。

伸縮ワイヤーの長さを調節して下さい。

乗車の際に、螺ネが強く締まると、伸縮ワイヤーの長さを調節して下さい。

長さを調節する場合は、ワイヤーをシートエリアの溝に挟み込み、先端部を2cm以上残して、乗付に結び目を作(硬く結ぶ)、先端部を2cm以上残して、乗付部分を切り、キャップを締めして下さい。

※結び目が無いワイヤーが抜けてエアバッグが膨らみません。

バイクと伸縮ワイヤーへの損傷を防ぐ保護カバー

必ず強く結ぶ

注意

- 伸縮ワイヤーと伸縮ワイヤーへの損傷を防ぐ保護カバー(バイクと伸縮ワイヤーの中間に通し、バイクのフレームやバイクのボトムなど)を付け箇所形状に貼付して、適切な長さで切断して下さい。

伸縮ワイヤーの長さを調節して下さい。

乗車の際に、螺ネが強く締まると、伸縮ワイヤーの長さを調節して下さい。

長さを調節する場合は、ワイヤーをシートエリアの溝に挟み込み、先端部を2cm以上残して、乗付に結び目を作(硬く結ぶ)、先端部を2cm以上残して、乗付部分を切り、キャップを締めして下さい。

※結び目が無いワイヤーが抜けてエアバッグが膨らみません。

バイクと伸縮ワイヤーへの損傷を防ぐ保護カバー

必ず強く結ぶ

注意

- 伸縮ワイヤーと伸縮ワイヤーへの損傷を防ぐ保護カバー(バイクと伸縮ワイヤーの中間に通し、バイクのフレームやバイクのボトムなど)を付け箇所形状に貼付して、適切な長さで切断して下さい。

伸縮ワイヤーの長さを調節して下さい。

乗車の際に、螺ネが強く締まると、伸縮ワイヤーの長さを調節して下さい。

長さを調節する場合は、ワイヤーをシートエリアの溝に挟み込み、先端部を2cm以上残して、乗付に結び目を作(硬く結ぶ)、先端部を2cm以上残して、乗付部分を切り、キャップを締めして下さい。

※結び目が無いワイヤーが抜けてエアバッグが膨らみません。

バイクと伸縮ワイヤーへの損傷を防ぐ保護カバー

必ず強く結ぶ

注意

- 伸縮ワイヤーと伸縮ワイヤーへの損傷を防ぐ保護カバー(バイクと伸縮ワイヤーの中間に通し、バイクのフレームやバイクのボトムなど)を付け箇所形状に貼付して、適切な長さで切断して下さい。

伸縮ワイヤーの長さを調節して下さい。

乗車の際に、螺ネが強く締まると、伸縮ワイヤーの長さを調節して下さい。

長さを調節する場合は、ワイヤーをシートエリアの溝に挟み込み、先端部を2cm以上残して、乗付に結び目を作(硬く結ぶ)、先端部を2cm以上残して、乗付部分を切り、キャップを締めして下さい。

※結び目が無いワイヤーが抜けてエアバッグが膨らみません。

バイクと伸縮ワイヤーへの損傷を防ぐ保護カバー

必ず強く結ぶ

注意

- 伸縮ワイヤーと伸縮ワイヤーへの損傷を防ぐ保護カバー(バイクと伸縮ワイヤーの中間に通し、バイクのフレームやバイクのボトムなど)を付け箇所形状に貼付して、適切な長さで切断して下さい。

伸縮ワイヤーの長さを調節して下さい。

乗車の際に、螺ネが強く締まると、伸縮ワイヤーの長さを調節して下さい。

長さを調節する場合は、ワイヤーをシートエリアの溝に挟み込み、先端部を2cm以上残して、乗付に結び目を作(硬く結ぶ)、先端部を2cm以上残して、乗付部分を切り、キャップを締めして下さい。

※結び目が無いワイヤーが抜けてエアバッグが膨らみません。

バイクと伸縮ワイヤーへの損傷を防ぐ保護カバー

必ず強く結ぶ

注意

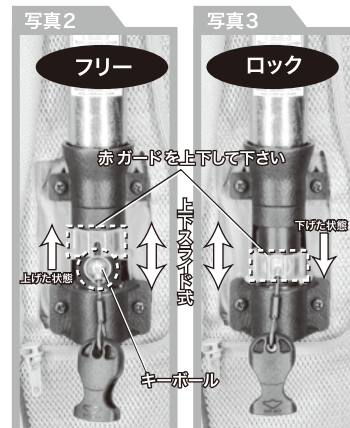
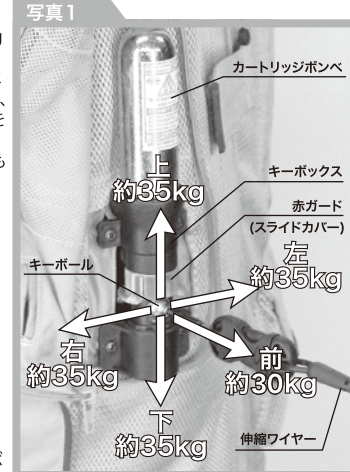
- 伸縮ワイヤーと伸縮ワイヤーへの損傷を防ぐ保護カバー(バイクと伸縮ワイヤーの中間に通し、バイクのフレームやバイクのボトムなど)を付け箇所形状に貼付して、適切な長さで切断して下さい。

4-3 キーボックス

この装置(写真1)は、通常約30kg~35kg程度で伸縮ワイヤーを引っ張る力により、キーボールが抜けて、キーボックス内に組み込まれている圧縮バネと針が運動し、カートリッジポンベの底部(封板)に穴を開けて炭酸ガスを送り、作動させます。着用時、前方どの方向から引っ張られてもキーボールが抜ける仕組みとなっています。

警告

- 1. キーボックスを分解したり、部品をはずさないで下さい。



警告

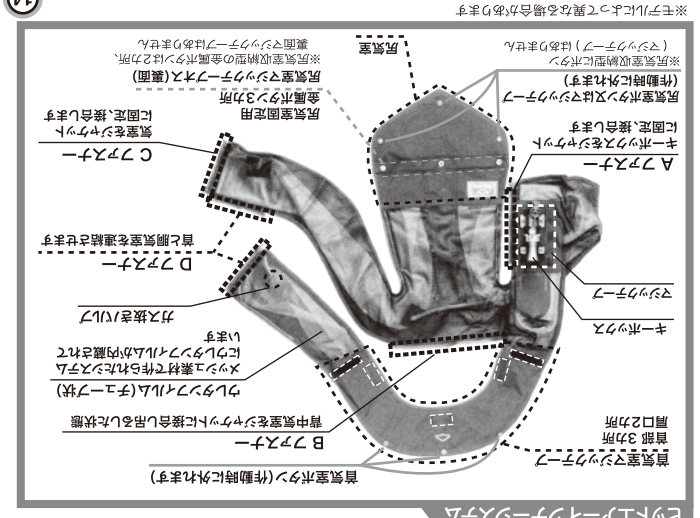
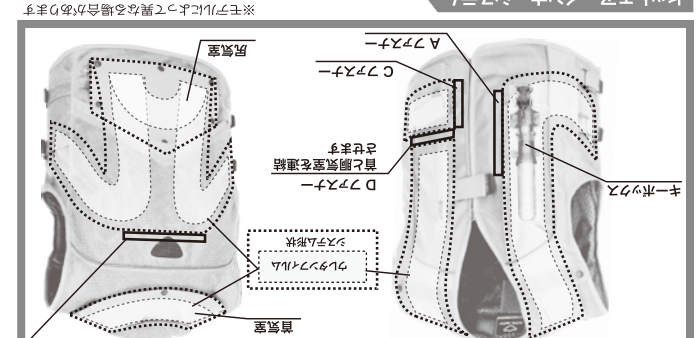
- 1. 赤ガードが下にスライドされたロックの状態(写真3)では、アクシデントの際に作動しない恐れがあります。また、キーボールがキーボックスから抜けられない場合、バイクと繋がったままになり大きな事故につながる危険性があります。使用時は必ず赤ガードを上(フリー)の位置にある事を確認して下さい(写真2)。

注意

- 2. 赤ガードがロックの状態(写真3)でも、大きな力で引っ張られた場合、キーボックスが壊れ作動する事があります。また、直ぐに作動しなくても、赤ガードを戻した時などに、急に作動する場合があります。

レットエリアー構造

レットエリアー構造は、シートエリアー構造と同様の構造になっています。取付け外し、それらにより取り外し、取付けが可能です。※シートエリアー構造は共に同様の構造になっています。



レットエリアー構造

レットエリアー構造は、シートエリアー構造と同様の構造になっています。取付け外し、それらにより取り外し、取付けが可能です。※シートエリアー構造は共に同様の構造になっています。

バイクの大きさや車種、ご自身の身長によって伸縮ワイヤーの取付位置、長さが異なります。上記を参考に yourself にあった方法で調節して下さい。

スクーター例 1: ハンドル首部の場合

スクーター例 2: シート部の場合

スクーター例 3: 後部シート部の場合

ワイヤーが長すぎると作動が遅れる原因となります

ワイヤーが短すぎると誤作動の原因となります

伸縮ワイヤーの長さ調節方法

バイクにまたがりスタンディングし伸縮ワイヤーの伸縮部分が伸びきった状態にする

スタンディング姿勢で伸縮部分が伸びきった状態 OK

スタンディング姿勢で伸縮部分にゆとり、たるみ、余裕がある状態はダメ NG

伸縮ワイヤーが伸びきってもスタンディング出来ない、中腰状態はダメ